

# りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる  
障害福祉事業部りとるらいふ  
発行日：2020年11月

少しずつ秋も深まり、紅葉が赤や黄色に綺麗に色づく今日この頃・・・  
朝晩の気温差が大きくなってきましたが、みなさん体調は崩していませんか？  
今年も残すところ2ヶ月となりましたが、寒さに負けず元気いっぱい過ごしていきま  
しょう！！  
今月号では、りとるらいふの雑貨ブランドである「mote 雑貨」をピックアップして  
歴史や製作過程など、魅力をたっぷりご紹介します☆



## 雑貨屋 mote

「mote(モート)」はりとりふの生活介護事業所に通う利用者の方々  
が作る、さをり雑貨のブランド名です。  
スウェーデン語で「出会い」を意味します。  
周りの時間がとまったかのごとく、黙々と作業に集中する姿、型にはま  
らない色の置き方や糸目の詰まり具合には「おなじじゃない」ことの面白  
さや奥深さがあります。  
「モート」はそんな「作り手たち」と地域の人たちとが「会う」場所。



ここでは、mote を立ち上げた金子部長に  
お話を聞いていきたいと思ひます。  
雑貨屋をやろうと思ったのは、何故ですか？

地域の方々が福祉施設に気軽に足を運びきっかけとなり、そこで  
障害のある方との出会いがステキな思い出になったり、共に触れ合  
いステキなひと時を過ごす場所になってもらえたらという想いから  
始めました！！  
なぜ雑貨かという・・・私が雑貨好きということもありますが、  
雑貨にはデザインを生み出す方や、商品の製作に携わる方、製品を  
並べたりお店番をしたり、雑貨屋さんの雰囲気づくりに関わる方な  
ど、様々な方の想いが詰まっていたり、たくさんの方の手が加わっ  
ていて、お一人お一人の魅力がコンテンツとして生まれてくるとい  
う事がとても素敵だと感じているからです☆  
これからも「地域の方々との出会いの場・障害のある方のそれぞ  
れの魅力が役割として発揮できる場」であるという根底のコンセプ  
トを継続し、より発展してもらいたいと思ひます。

## mote history

### 2009年 開店当時の雑貨屋 mote



## mote 雑貨ができるまで



- ①ご利用者が独自の配色でさをり織をします。
- ②生地が出来上がります。
- ③裁縫担当職員の涌井さんが色々な雑貨を製作し仕上げます。
- ④出来上がったものを「きら」に陳列しています。



## 商品ラインナップ(一例です。この他にもまだまだあります！！)



ペンケース(¥1,500)



ハンドバッグ(¥2,300～)



名刺入れ(¥1,500)

私たちが大切にしていること  
「その方だからこそ、生み出せる色彩感覚と法則」  
誰からの干渉も受けず、出来上がった生のままの作品を  
「世界にひとつだけの雑貨に仕上げている」  
それが私たちの役目です。  
雑貨屋 mote 店員一同

**Little Life mote**  
〒942-0074  
上越市石橋 2-10-12  
りとるの家 雑貨屋 mote  
(生活介護事業所「きら」内)

# きら



今回は、利用者さんの休憩時間の過ごし方について紹介します。

外出先などでいただいていたパンフレットやカタログ等を持参され、自分専用の本棚に綺麗に飾って過ごされたり、カラフルな文房具類を並べることを楽しまれたりする利用者さんがいます。今回はほんの一部ですが、皆様思い思いの場所で、自分なりの休憩時間を楽しまれています。

# とも

10月のともは調理イベントでモンブランを作りました🍌🍌通常のモンブランは栗を使いますが、かぼちゃを使用して調理しました☆

かぼちゃを押しつぶすのに苦労される様子が見られましたが、全力でご利用者様がつぶしてくださったので、滑らかな舌触りに🍴美味しく頂きました🍴



# らん



10月のイベントは🎃ハロウィンパーティー！！午前中は、昼食のロコモコ丼のためにハンバーグ作りをしました。具材を混ぜたり、手でこねたりすると「はじめで〜！」「わ〜！」「なんか変な感じ(≧▽≦)」と歓声があがりました。お兄さん達は率先して小さいおともだちのお手伝いをしてくれました。午後からは、思い思いの仮装をして「トリックオアトリート！」とお菓子をもらいに回りました。そして最後はご家族と一緒にメインイベントのおぼけやしきヘレツゴ〜👻怖かったかな？

# にこ

今月は石けん作りをしました。ゼラチンをお湯で溶かして、ボディソープを混ぜ、型に流し込みます。こぼさないように慎重に注ぐ表情は、まさに真剣そのもの！食紅で好きな色を付け、冷やし固めたら完成です。完成したプルプルの石けんを触りながら「いい匂い！」「お菓子みたい！」と皆で触って握って楽しんでいました♪



# 「みゃ〜」

放課後等デイサービスもーと 主任 吹原和美

10年くらい前、保育園で4歳児を受持っていた秋、運動会が終わったあとの雨上がりの秋晴れの日、3歳児担任のなっちゃんと言った3人で3クラス約50人と一緒に秋探しの散歩に出掛け、保育園に帰る道中でたまたま出会ったお話をします。

農道を歩いていると、子どもたちが稲刈りの終わった田んぼの中で、身動きが取れなくなって泣いている子猫を見つけました。かぼそい声で「みゃ〜みゃ〜。」と鳴いているので動物大好きななっちゃんは（犬と猫を飼っている）もう半泣きです！「どうしたらいいですか〜。」と年長者の私に判断を求めてきます。動物嫌いのともちゃんは勿論「私は無理…」と…と…とにかく助けねば！と思い…3人で役割分担を決め、私は若干ぬかるんでいる田んぼに入り、子どもたちの声援のもと子猫を救出！近くの安全なところに移動させ、安心して「さあ帰ろう。」と歩いていると、その猫がヨロヨロと「みゃ〜みゃ〜。」鳴きながらついてくるのです…。子ども達もですが、またまたなっちゃんが「ついてきます〜。絶対捨て猫です。このままにできません！」と泣き出しました。「近くの知り合いの猫好きなおばちゃんの家、自分の仕事が終わるまで預かってもらってきます。」と言い出し、三人で話し合った結果、子猫をなっちゃんに託して安全な所で戻って来るまで待つことにしました。そんな時の子ども達って何故か一致団結！なっちゃんが戻ってくるのを心配しながら待っていました。

笑って戻ってきたなっちゃんは、勿論みんなのヒーロー。なっちゃんが休憩時間に子猫の預け先に電話をし、迷惑かけていないかを確認すると、おばさんが既に引受先を見つけてくれていて…。(感謝)

そのことを帰りの会で子どもたちに報告すると、みんな大喜びでした。なっちゃんは仕事終わりにキャットフードを買って引受先と宅配したおばさんのところにお礼に行っていたのですよ。ホントに頭が下がります。

次の日の朝、玄関当番のともちゃんは年長女児のKちゃんの母から呼び止められ、「聞かなければ話さない子が、自分から昨日の出来事を事細かに家族に話していました。娘に親が経験させられない経験をさせて下さり、ありがとうございます。」と伝えられたとのこと。Kちゃんは「私もあんな大人になりたい。」と母に言ったそうです。しかしなんと…母に感謝されたのは、子ども達と応援していた、動物嫌いのともちゃん(笑)。ここがみそ！(笑)

あの時あの場所がたまたま散歩コースだったから、子猫も私達もかけがえのないものを得させてもらいました。

私達3人はいつも「笑って」、いつも「何をしたら子ども達も私達も楽しいか」を考えて…約50人を垣根なく保育し、助け合っていました。保育士としてはまだまだ未熟で成長途中の私達に、親以外の過ごしの中にもいつもいる近い大人が、他の大人とどう関わっているのかということに汚れの無い心で見聞きしながら成長していく、未来ある子どもと過ごしているのだと身を引き締まらせてくれた出来事でした。



# もーと



プラレールとブロックで「都市化計画!」、ブロックと布で「秘密基地ごっこ!」と声を出す子どもたち。プラレールは単品でも面白い!もーとの子ども達は創造力も遊び方も無限大です。

「いいでしょ〜!仲間に入ってもいいよ〜。」と笑顔でお披露目からのドヤ顔!たのしそ〜😊

# もーとの製作紹介



もーとのみんなで作った巨大写真フレームでパシャリ!個性豊かな仮装でトリック オア トリート!お菓子も写真映えもぜーんぶ貰っちゃうぞー!